

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当エリアは、漁港を営み古くから住まわれている戸建てと団地や市営住宅、大型マンション等が混在する地域です。各自治会・町内会は、熱心で活動的な住民が多く、ホームページや町内会活動が盛んです。しかし一部のエリアでは高齢化が進んでおり、現在の活動を次世代につなげることが今後の課題と考えます。そのため当施設の合築の機能を活かし、子ども・障がい・高齢者そして特養に入居されてる方等多世代の方が交流し集える場をつくり、地域コミュニティを活性化させ、支えあう地域作りを目指して参ります。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域のニーズに沿った事業・講演会や講座を開催する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	8050問題を含む深刻化した課題を地域住民、関係機関、行政、警察とネットワークを組み取り組む。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	見守りホルダー「みなとホルダー」の普及啓発の促進と地域全体での見守り体制の構築を目指す。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域住民に認知症を理解してもらう事、また認知症の方の見守りや支える事ができる地域づくりを目指す。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	障がい児者支援事業を開催し、地域みんなで見守れる仕組みをつくる。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

多世代の方が交流し、気軽に集える場づくりを目的として、今年度も「わくわく秋祭り2025」を開催しました。町内会、地域の活動団体、ボランティアの皆様にご協力をいただき、飲食ブースや健康チェックコーナー、地場野菜の出店、ゲームコーナーのほか、地域の活動団体による発表や披露の場を設けることができました。子どもから高齢者まで幅広い世代が参加し、世代を超えた交流の機会となりました。  
また、当ケアプラザで毎月開催している認知症カフェでは、地域住民に加え、特別養護老人ホームの入居者様や地域ボランティアの参加もあり、継続的な交流の場として定着しつつあります。参加者同士が顔の見える関係を築くことで、認知症への理解促進や見守り意識の醸成につながっています。  
これらの取り組みを通して、合築施設の特性を活かした多世代交流の場づくりが進み、地域コミュニティの活性化や支え合いの意識づくりに一定の成果が見られました。一方で、今後は高齢化が進む地域において、若い世代や新たな担い手の参加を促し、地域活動を次世代へつないでいく仕組みづくりが引き続きの課題であると考えています。

区からのコメント

町内会・サロン・シニアクラブ等に出向いた周知・出張相談、認知症・体操講座の開催、民生委員交流会での虐待対応の学び直しにより、地域の関心に即した相談しやすい体制が強化されています。子育て拠点「とことこ」との連携や、発達障害児の個別学習支援の場づくりなど、多層的な支援も広がっています。また、「わくわく秋祭り」をはじめ、多世代交流の場づくりが地域のつながりを育成し、民生委員交流会・医療とケアマネ交流会・地域ケア会議を通じ、独居や複合課題の共有・対応力が向上しています。  
地域に足を運び、地域の声を聞いていただいています。シニアクラブ連絡会や医療ケアマネ交流会をはじめとした西柴地域ケアプラザの様々な取組みが、地域や支援機関との顔の見える関係でつながっています。また、チームオレンジの活動は、当事者・家族のニーズを踏まえて推進されており、認知症への地域の受容力向上に寄与しています。課題としてとらえている独居高齢者や複合的な課題を抱えた世帯への支援は、今後、区としてもケアプラザと一緒に考えていかなければならない課題です。ぜひ地域で把握した声をもとに支援の方向性について一緒に取り組んでいければと思います。